

## は し が き

可聴周波数以下の空気振動、いわゆる低周波空気振動は振動として人間の感覚に入り、あるいは生理学的に機能に影響を与えているといわれている。この低周波空気振動による公害問題が一般に認識されるようになったのは1970年代である。

当所では昭和52年度からこの問題を取り上げ、同55年度まで4年間にわたり、ブローア、コンプレッサ、ボイラなどの産業機械、家庭用給湯ボイラ及び道路橋梁、鉄道橋梁などから発生する低周波空気振動の実態調査を実施してきた。既に一部の成果を当所所報に報告しているが、今回、一連の調査結果をとりまとめこの報告書におさめた。今後の低周波空気振動の調査、対策等の基礎資料として御利用いただければ幸いである。

なお、この調査実施にあたり、御協力をいただいた関係各位に心から感謝申上げる次第である。

昭和56年3月

横浜市公害研究所長

菅野 明 男